



# 千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

96.12.11 No. 4514

## 津田沼支部・幕張支部定期大会開催

# JR総連解体組織拡大へ!

### 津田沼支部定期大会開催!

二月五日、船橋市・東部公民館において、第二一回津田沼支部定期大会が開催された。

大会には、国労津田沼分会書記長、第一波ストで不当にも解雇された重見さんも駆けつける中で、津田沼支部の闘う伝統を守りぬいて闘う方針が決定された。

### 国労津田沼分会の仲間も、共に闘うあいさつ

大会は、議長に高田くんを出し進められ、支部を代表してあいさつに立った庄司支部長は、「千葉転から習志野への転勤を利用して脱退攻撃に見られるJR-JR総連による組織破壊攻撃を許さず、JR総連解体・組織拡大へ闘いぬこう」と力強く訴えた。

来賓あいさつでは、国労津田沼分会・鶴岡書記長より「JR総連との職場での組織攻防戦に本腰を入れていきたい」と、津田沼支部とともにJR総連解体へともに闘うことが明らかにされ、続いて、第一波ストで不当にも解雇され解雇撤回を闘いぬいている重見さんからも「津田沼支部の仲間たちの闘いに敬意を表し、共に闘う」と決意も含めたあいさつが行なわれた。本部を代表して田中書記長からは、一〇年間の闘いに決着をつけるためにも、JR総連解体

・組織拡大を、労務政策を優先させるあまりに列車運行もできなくなっている現実、全国の労働者から動労千葉が注目されていることなどが提起された。

執行部から経過報告、会計報告、九六年度運動方針案、予算案が提起された後、質疑応答に入った。質疑では、①検修・外勤をめぐる状況についてはどうなっているのか、②今後、高齢化が進む中で、出向者の受皿の問題について考えてもらいたい、③二月ダイヤ改で快速を持つようになったが、錦糸町電留線への入区はやったことがないので、乱れた時には入れない、などの意見が出され、一括採択された後、九六年度役員が選出され、そして、大会宣言が高らかに読み上げられ、最後に庄司支部長の団結ガンバロー三唱を行い、津田沼支部定期大会は終了した。

### ◆九六年度新役員体制◆

役職	氏名	年令
支部長	庄司 仁	三七
副	高梨 広之	三八
書記長	高澤 成夫	三七
執行委員	井上 哲郎 福島 勝之 相馬 正利 結城 敏之	三八 三七 三七 三五
会計監査	内山 敏光 斉藤 守秀	三八 三四

### 幕張支部定期大会開催!

幕張支部は、十二月五日千葉市民会館において、第一九回定期大会を組合員・来賓五十名の結果をもって開催しました。

議長には、長田君を選出し議事ははじめられました。石幡支部長は、「この十年間苦しい事ばかりだったが一つ一つのりこえて頑張ってきました。危機にあるJR体制を崩壊させる闘いや昇進試験・出向攻撃を打破するために闘っていく。今年は、有機溶剤問題がありました、この攻撃を打ち破った体制を守り抜いていこう」とあいさつしました。

来賓の中野委員長は、「JR体制は、この十年間で破綻状況になっている。二兆兆円の累積債務・革マルと結託した労務政策・運行管理能力など危機的状況にある。幕張の有機溶剤で要求の前進を勝ち取ったことは、状況が変わってきたことのあるわれである。JR総連の国労解体運動は、JR総連革マルの危機のあらわれです。運転職場からJR総連を解体していこう」とあいさつしました。また、現在休職中の白井さんからもあいさつをいただきました。議事の中では、「ダイヤ改で仕事が変わったが、助役の言っていることが毎日かわっている」「帰りの点呼が二五秒になった。

助役はいい加減なことばかりしている。みんなで出来ることを決めまわって反撃したい」「業務指示を出せば仕事を覚えられるのか、主任がやる仕事を指導職の者がやっている」等の意見がだされました。質問として大船電車区の余剰人員の幕張への転勤の噂・鉄産労の旗挙げについてや掲示板について出されました。

これらの質問や意見について本部と支部から、支部として執行委員会でもまとめ集会などを開き、申し入れなどをしていきたい。本部は、支部から出た意見をもとに団交などで支社を追求していく事が確認されました。最後に、石幡支部長の力強い団結ガンバローで大会は大成功のうちを終りました。

### ◆九六年度新役員体制◆

役職	氏名	年令
支部長	石幡 佳和	四三
副	斉藤 常雄	五三
書記長	繁沢 敏一	三九
執行委員	小沢 勇 木村 勇 高橋 栄 渡辺 勝 山田 護 市東 正巳	三八 五三 四二 四〇 三九 三八
特執	井上 孝弘	三四
会計監査	鶴田 孝夫 高田 昌史	五一 三七